

# 東京都中小企業収益動向調査

－平成25年度の収益動向と平成26年度の収益見通し－

## 《 概要 》

### ○平成25年度の「増収企業」は45.9%と5年連続で増加

平成25年度の売上高の状況は、前年度よりも増加した企業（増収企業）が45.9%となった。増収企業は5年連続で増加し、直近の10年間で最も高い割合となった。業種別にみても、すべての業種で増収企業が増加した。

### ○平成25年度の「増益企業」は23.0%、「減益企業」が45.1%で、前年度に比べて改善

平成25年度の経常利益の状況は、前年度よりも増加した企業（増益企業）が23.0%、減少した企業（減益企業）が45.1%となった。前年度に比べて増益企業が増加、減益企業が減少し、経常利益の状況が改善した。

### ○平成25年度の経常利益増減の主な要因は「販売数量」が最多

平成25年度の経常利益増減の主な要因は、増益企業、減益企業ともに「販売数量」が最も高い。増益企業では「販売数量」が増加し、減益企業では「原材料・仕入価格」が2年連続で増加している。

### ○平成25年度の採算状況は黒字企業が34.4%と5年連続で増加

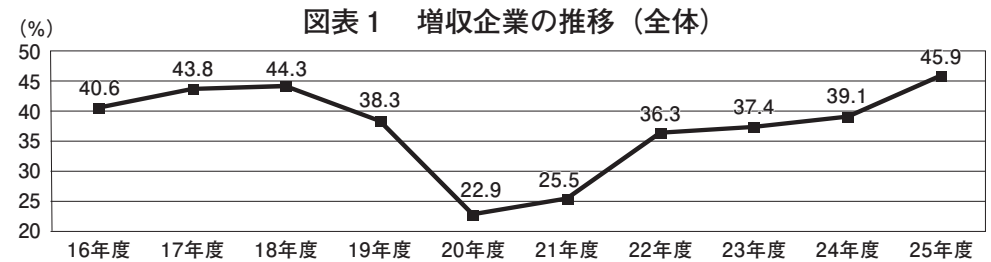
平成25年度の採算状況は、黒字企業が34.4%と5年連続で増加し、赤字企業36.2%との差はわずかとなってきている。

### ○平成26年度の収益見通しは「好転」が16.0%、「悪化」が38.0%

平成26年度の収益見通しについては、「好転」が16.0%、「悪化」が38.0%となった。前年度に比べて「悪化」が増加し、見通しはやや厳しさを増した。

## 1. 平成25年度の売上高の状況

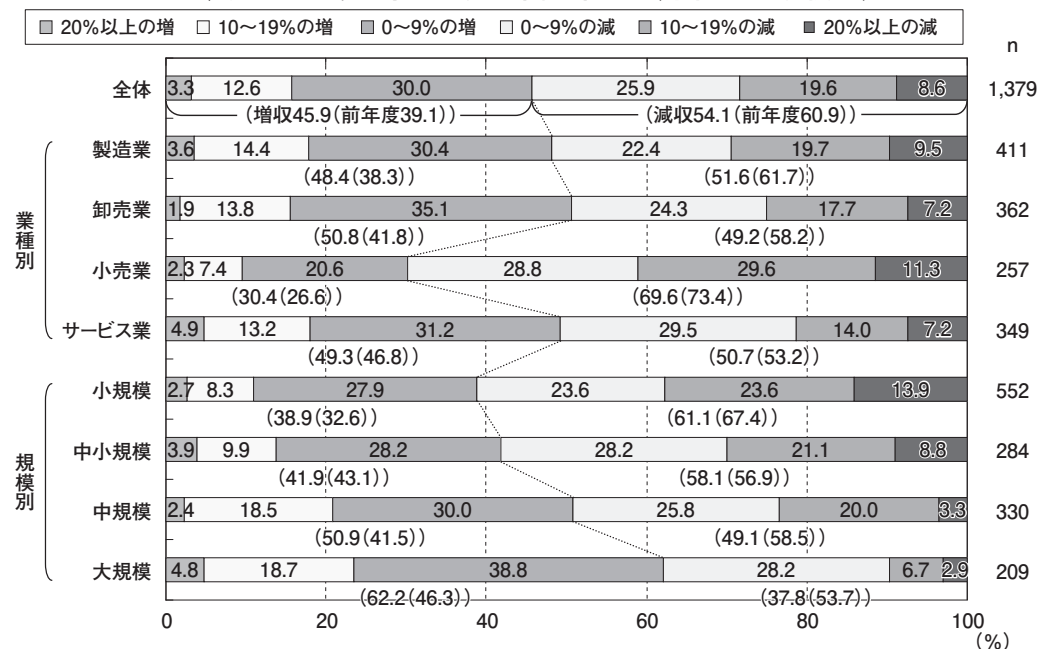
平成25年度の売上高の状況は、前年度よりも増加した企業（以下「増収企業」）が45.9%、前年度よりも減少した企業が54.1%となった。増収企業は、21年度以降5年連続で増加しており、25年度は直近の10年間で最も高い割合となった。



業種別にみると、すべての業種で増収企業が増加した。特に製造業48.4%（前年度38.3%）が前年度比10.1ポイントと大きく増加したほか、卸売業50.8%（同41.8%）は9.0ポイント増加し、増収企業が半数を超えた。小売業も厳しい状況ながら、増収企業が3割に達した。

規模別にみると、中小規模を除き、増収企業が増加した。特に、大規模62.2%（同46.3%）と中規模50.9%（同41.5%）で増加幅が大きく、ともに増収企業が半数を超えた。

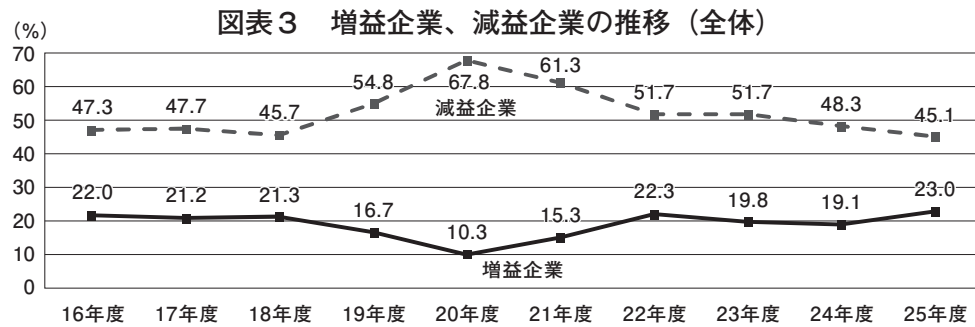
図表2 平成25年度の売上高の状況（業種別・規模別）



注) ( ) 内は増収減収の合計及び前回25年9月調査の数値（四捨五入により内訳の計と一致しない場合がある）。無回答、規模不明を除く。

## 2. 平成25年度の経常利益の状況

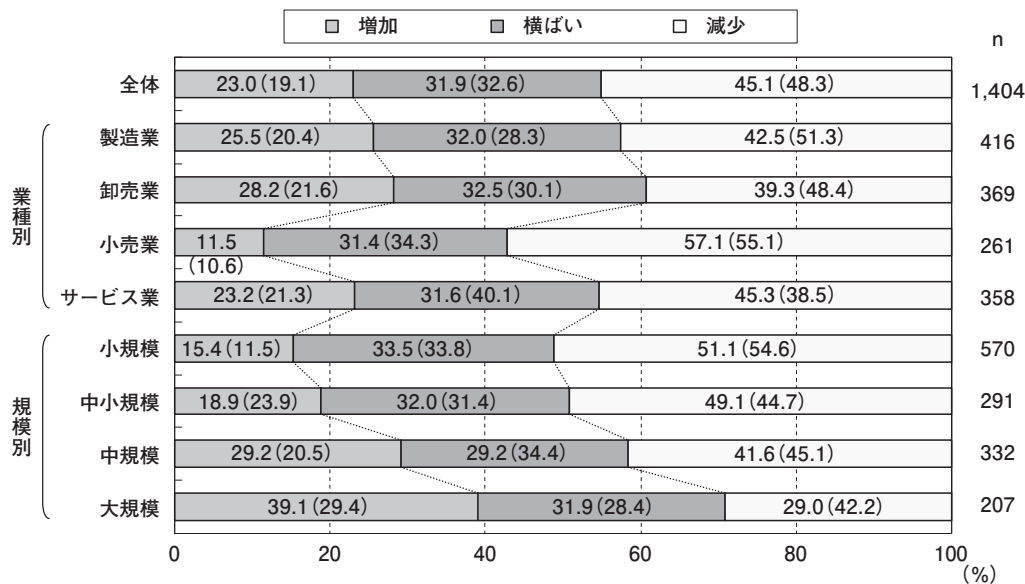
平成25年度の経常利益の状況は、前年度よりも増加した企業（以下「増益企業」）が23.0%、減少した企業（以下「減益企業」）が45.1%となった。前年度に比べて増益企業が増加、減益企業が減少し、経常利益の状況が改善した。



業種別にみると、製造業と卸売業では、増益企業が増加、減益企業が減少し、経常利益の状況が改善している。一方、小売業とサービス業は、減益企業が増益企業を上回って増加しており、特に小売業は減益企業が57.1%と6割近くを占め、厳しい状況である。

規模別にみると、中小規模のみ増益企業が増加、減益企業が増加し、悪化した。一方、大規模では増益企業が約4割を占め、減益企業の29.0%を上回り逆転した。

図表4 平成25年度の経常利益の状況（業種別・規模別）

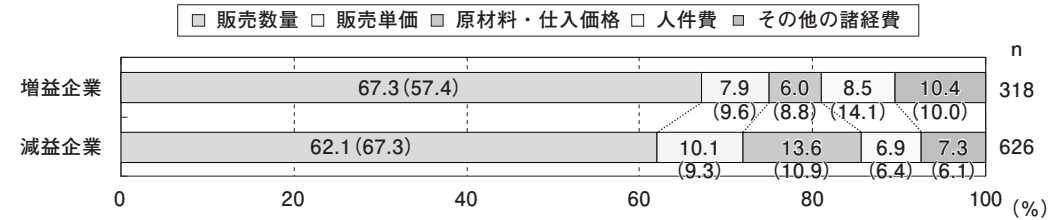


注) ( )内は、前回25年9月調査。無回答、規模不明を除く。

## 3. 経常利益増減の主な要因

平成25年度の経常利益増減の主な要因は、増益企業、減益企業ともに「販売数量」が最も高い。前年度比で見ると、増益企業では「販売数量」67.3%（前年度57.4%）が10ポイント近く増加し、「人件費」8.5%（同14.1%）などは減少した。減益企業では「原材料・仕入価格」13.6%（同10.9%）が2年連続で増加している。

図表5 増益、減益企業別の経常利益増減の主な要因

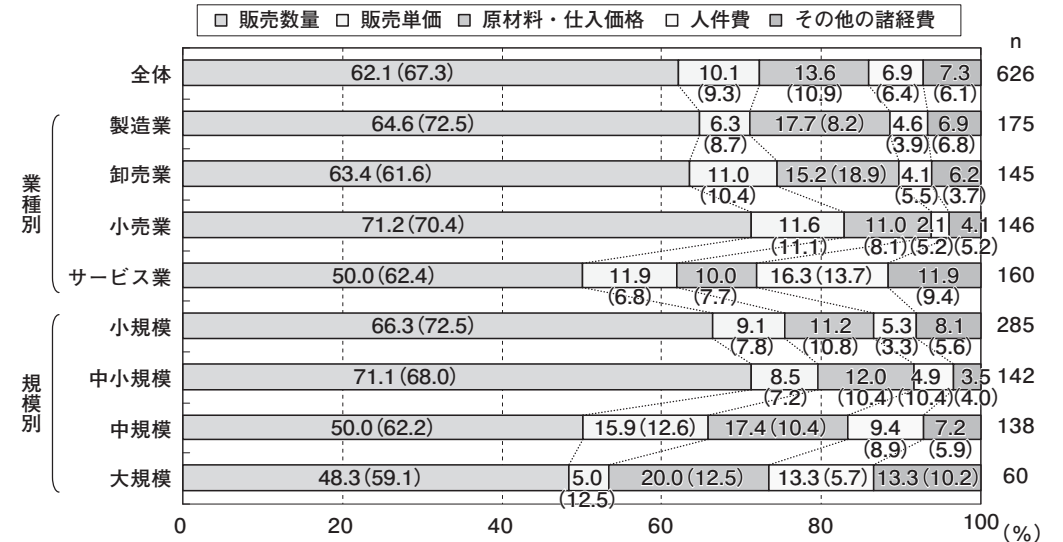


注) ( )内は前回25年9月調査。無回答を除く。

減益企業における経常利益減少の主な要因を業種別にみると、製造業では「原材料・仕入価格」17.7%（前年度8.2%）が前年度比で9.5ポイント増加した。サービス業では「販売数量」50.0%（同62.4%）が減少した一方で、「販売単価」11.9%（同6.8%）などが増加した。また、小売業では販売数量が71.2%（同70.4%）と特に高くなっている。

規模別にみると、中小規模を除き「販売数量」が減少し、大規模と中規模では半数以下となった。一方、すべての規模で「原材料・仕入価格」が増加し、大規模では2割を占めた。

図表6 経常利益減少の主な要因（業種別・規模別）

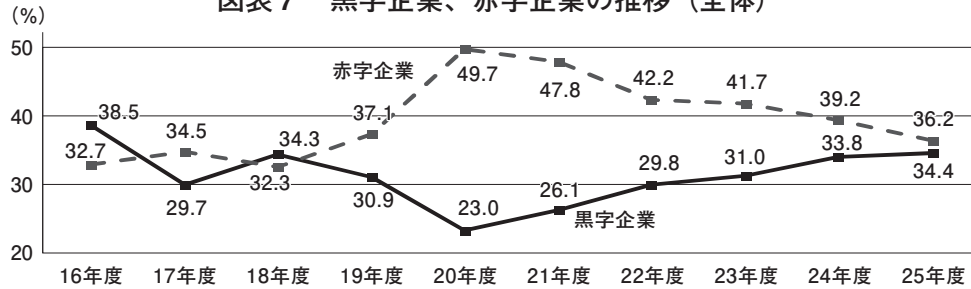


注) ( )内は、前回25年9月調査。無回答、規模不明を除く。

## 4. 平成25年度の採算状況

平成25年度の採算状況は、黒字企業が34.4%、収支均衡企業が29.4%、赤字企業が36.2%となった。黒字企業は5年連続で増加、赤字企業は5年連続で減少し、両者の差はわずかとなってきている。

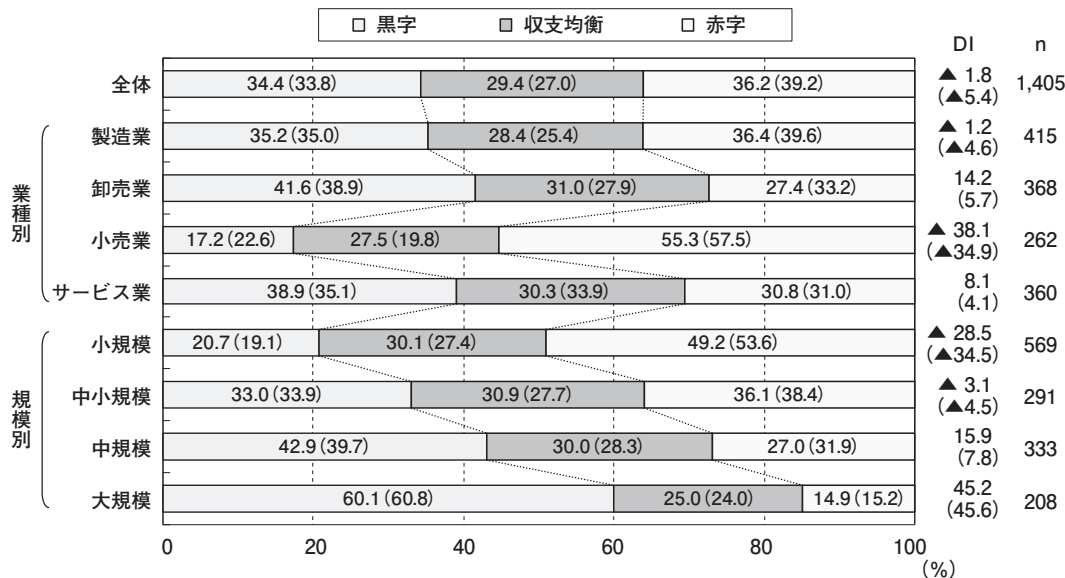
図表7 黒字企業、赤字企業の推移（全体）



業種別に25年度の採算状況をDI値（黒字企業－赤字企業）でみると、小売業を除きDI値が上昇し、採算状況は改善した。卸売業14.2（前年度5.7）とサービス業8.1（同4.1）は黒字企業が赤字企業を上回り、DI値がプラスとなっている。小売業▲38.1（同▲34.9）のみ、黒字企業の減少によりDI値が低下し、厳しい状況が続いている。

規模別にみると、中規模15.9（同7.8）や小規模▲28.5（同▲34.5）でDI値が上昇した。規模が大きくなるほどDI値が高くなっており、規模により格差が見られる。

図表8 平成25年度の採算状況（業種別・規模別）

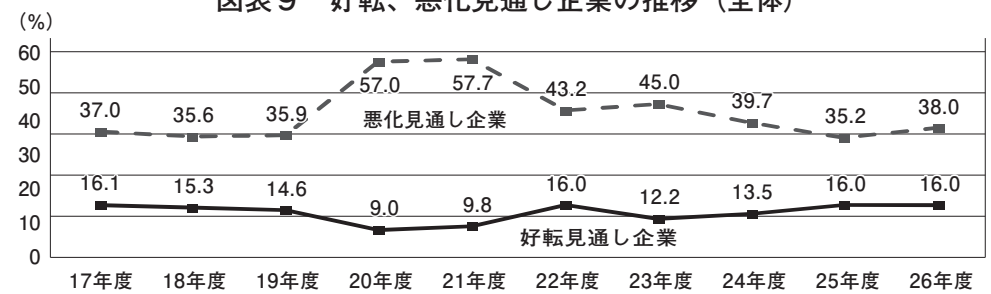


注）（ ）内は、前回25年9月調査。無回答、規模不明を除く。

## 5. 平成26年度の収益見通し

平成26年度の収益見通しについては、「好転」が16.0%（前年度16.0%）、「不変」が46.0%（同48.8%）、「悪化」が38.0%（同35.2%）となった。前年度に比べて「悪化」が2.8ポイント増加し、見通しはやや厳しさを増した。

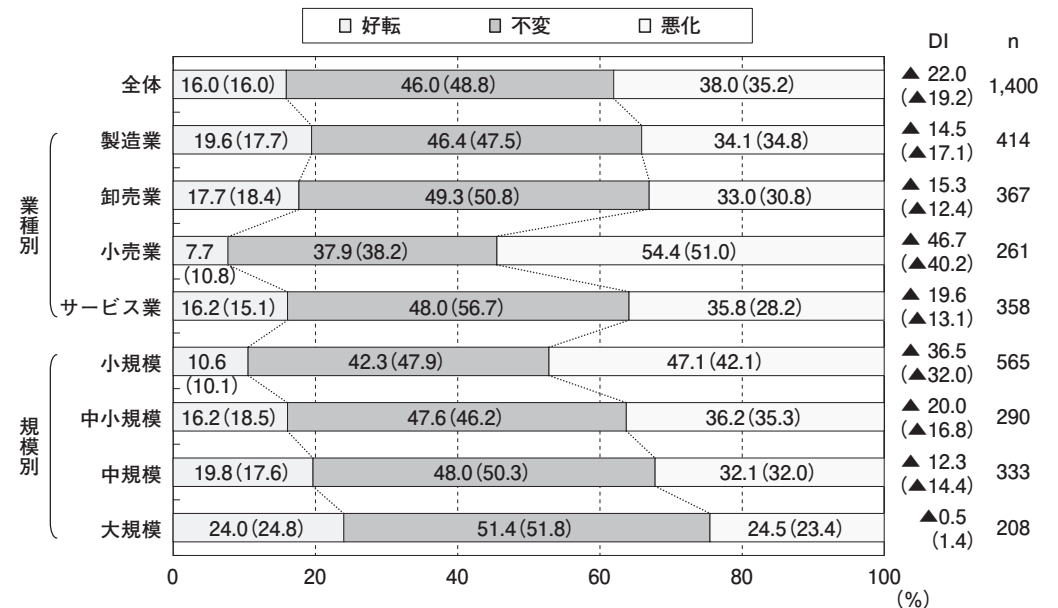
図表9 好転、悪化見通し企業の推移（全体）



業種別に収益見通しをDI値（「好転」見通し企業－「悪化」見通し企業）でみると、製造業のみDI値が上昇し、見通しが改善した。他の業種はDI値が低下しており、特に小売業では「悪化」が54.4%と半数を超え、見通しが悪化している。

規模別にみると、中規模のみDI値が改善した。他の規模はDI値が低下しており、小規模で4.5ポイントとやや大きく悪化したほか、大規模もDI値がマイナスとなった。

図表10 平成26年度の収益見通し（業種別・規模別）



注）（ ）内は、前回25年9月調査。無回答、規模不明を除く。